

気候情報

2006年4月の日本の天候

気温低く日照少ない（北・東・西日本）

4月の天気概況

上旬は、短い周期で低気圧や前線が本州付近を通過した。低気圧の通過後は、北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置となり気温が低く、北海道では雪の日も多かった。10日から12日にかけては、非常に動きの遅い低気圧と前線の影響で、九州北部、四国、紀伊半島にかけてと房総半島で、4月としては記録的な大雨となった所があった。その後も、動きの遅い寒冷低気圧が相次いで日本付近を通過したため、北・東・西日本では、気温が低く、日照時間の少ない日が多かった。また、寒気が通過する際大気の状態が不安定となり、関東を中心に落雷や降雹も観測された。月末には、再び短い周期で天気が変わるようになった。

なお月を通じて、黄砂が広範囲でたびたび観測され、東京では6年ぶりの観測となった。また、今冬、積雪が多かった東日本日本海側の山間部では、3月下旬以降の低温の影響もあり、融雪が遅れた。

上旬：短い周期で本州付近を低気圧や前線が通り、晴れの日は続かなかった。低気圧は東海上で発達したため、北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置となり、強い寒気が入った。また、寒冷低気圧が通過した8日には、北アルプスで表層雪崩による遭難が相次いだ。**旬平均気温**は、北日本と東日本は低く、西日本は平年並だった。南西諸島では高かった。**旬降水量**は、西日本と東日本日本海側で多く、南西諸島で少なかった。北日本と東日本太平洋側は平年並だった。**旬日照時間**は、北日本、東日本日本海側、西日本は少なく、東日本太平洋側は平年並、南西諸島では多かった。

中旬：動きの遅い低気圧が相次いで通過したため、全国的に曇りや雨の日が多かった。10日から12日にかけては、日本海に進んだ低気圧の前面に暖かく湿った気流が流れ込み、九州北部や四国、紀伊半島、静岡県、房総半島で大雨となり、4月としての日降水量の極値を更新した地点があった。また、18日から19日にかけては東北地方以西で黄砂が観測された。**旬平均気温**は、全国的に平年並だが、北海道と中国地方では低かった。**旬降水量**は、北・東・西日本で多かった。南西諸島では平年並だった。**旬日照時間**は、九州南部で平年並だった他は、全国的に少なかった。

下旬：20日から22日および24日から25日にかけて、上空に強い寒気を伴った寒冷低気圧がゆっくりと日本海から本州付近を通過し、関東を中心に突風や落雷、降雹が観測された。西日本では、天気は短い周期で変わったが、大きく崩れることはなかった。**旬平均気温**は、北・東・西日本で低かった。南西諸島では平年並だった。**旬降水量**は、東・西日本で少なく、南西諸島

では多かった。北日本は平年並だった。**旬日照時間**は、北・東日本の日本海側、南西諸島で少なく、北・東日本の太平洋側、西日本では平年並だった。

4月の気候統計

月平均気温：北日本、東日本、および西日本で低かった。特に、北日本ではかなり低く、平年を2℃以上、下回ったところがあった。南西諸島では平年並だった。

月降水量：北日本の太平洋側、東日本の日本海側、および西日本では多かったが、そのほかの地域は平年並だった。四国地方の一部などでは平年の200%以上となったところがあり、清水（高知県）では、4月の月降水量の最大値を更新した。

月間日照時間：全国的に少なかった。特に、北日本、東日本日本海側、および西日本では、かなり少なく、平年の70%前後のところが多かった。札幌（北海道）、青森、秋田など、北日本を中心とする14地点で4月の月間日照時間の最小値を更新した。

降雪・積雪：降雪の深さ（月合計）、月最深積雪ともに、北日本、東日本日本海側の山沿いでは多かった。平野部では北海道の太平洋側では多かったものの、そのほかは平年並か少なかった。

（気象庁観測部統計室）

4月の記録（1位更新のみ）

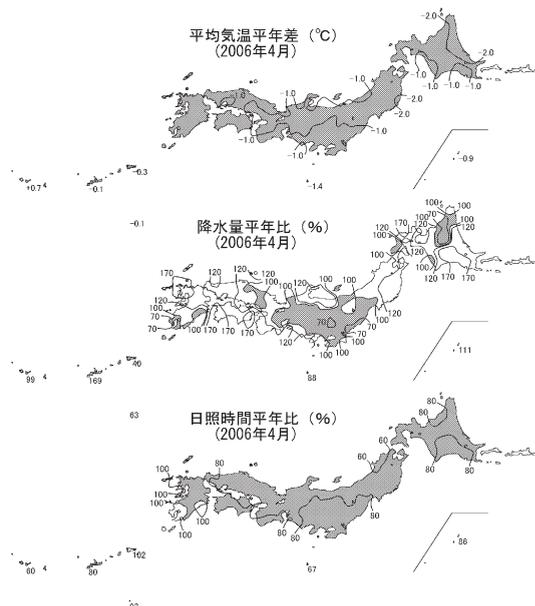
・月降水量多い方から（mm）

清水（高知県）451.0

・月間日照時間少ない方から（時間）

札幌 121.0 函館 128.2 青森 117.8 秋田 104.6
酒田 121.5 奈良 115.5 など14地点

2006年4月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。